

村社柳森神社由緒

天正元年九月十七日(大正十五年まで 三百五十四年)洪水あり籠田郷の舊社地崩壊して神像漂流し今の社地の巽の柳木上に懸る、此地は古田明理川兩村界に屬する故に棄て祭祀せざるこ久しきに涉り、然るに明理川の人山路某の屋上に白幣降る村民感應祠を此地に建て二神の像を安置し崇敬し、靈驗顯著にして疫病消除の神となし、毎年正月朔日より同七日に至るまで衆庶群參す

一拜殿新築

明治十三年

建築費既往に屬し詳細は不明 一般寄附金を以て充當す

奥行十四尺四寸 前十一尺四寸 後十二尺 柱高壹丈

一神殿新築

從前の建物古損し一般信者の寄附金を以て木造銅板葺に新築す
 神殿拜殿間左右石造玉垣新造
 時大正十二年 建築費 五千五十四圓四拾錢

本社神殿及玉垣建造に付ては寄附募集に出張は本部落各人の努力せし其勞は多とするも中に就き左記の者は終始一貫建築委員として建築一切の任務を處理し完結せしめたる者なり

- 石原 秀藏 一色儀三郎 石原利右衛門
- 越智増太郎 石原勝次 秋川龜藏
- 越智竹次

神殿建築當時明理川者左の通

- 石原和太郎 山路卯吉 秋川卯七
- 秋川覺次 石原清造 一色セシ
- 一色喜六 一色隆助 一色辰吉
- 近藤彌十郎 高橋輝一 石原秀藏
- 石原徳治 瀬良丑吉 石原與十郎
- 石原利右衛門 越智幸藏 一色廣助
- 石原勝次 石原長平 越智柚太郎
- 秋川安喜造 石原丹治 一色清太郎
- 越智重太郎 一色和三郎 秋川政太郎
- 近藤實太郎 秋川高治郎 一色儀三郎
- 近藤豊稔 一色甚太郎 越智増太郎
- 青野源太郎 近藤松吉 一色藤義
- 近藤岸太郎 一色耕平 越智鶴松
- 越智富五郎 櫛部和田兵衛 一色徳藏
- 秋川宗助 越智寅吉 黒川團三郎
- 近藤米太郎 一色佐吉 秋川龜藏